## 平成26年度学校評価シート

学校名:和歌山県立和歌山工業高等学校 学校長名:中前 耕 一 🗊

目指す学校像・育てたい生徒像

- ○和歌山県の伝統ある工業高校として、職業教育のリーダ的役割を果たし、社会に貢献する学校。
- ○校訓である「質実剛健」に相応しい、健全な自主自立の精神や勤労を尊重し、国内外の産業発展に貢献できる生徒。

### 重点目標

(学校の課題に即し、精選した上で 具体的かつ明確に記入する)

- 1進路保障に向け学力の充実を図ると共に、国際人の育成を行う。
- 2基本的生活習慣の確立と、問題行動の防止に努める。
- 3広報の充実と地域との連携を深め、特色ある中核校を目指す。
- 4 適正かつ円滑な校務運営に努め、職員の意識向上を図る。

	Α	十分に達成した(80%以上)	
達出	В	概ね達成した(60%以上)	
度	С	あまり十分でない (40%以上)	
	D	不十分である(40%未満)	

### 学校評価の結果と改善方策の公表の方法

年度末に発行する学校だよりに学校評価の結果を 掲載するとともに、本校ホームページでも公表す る予定である。

(注) 1、重点目標は3~4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2、番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3、評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。 4、年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5、学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

	自己評価						
	重点項目				平成26年度評価(平成27年3月24日現在)		
器	現状と課題	評価項目	具体饵組	評価指標	評価項目の達成状況	主	次年度への課題と改善方策
1	基礎学力の不足等で 第1希望の進路に進め ていない生徒がいる。	<ul><li>○第1次合格率向上</li><li>○実力テストや検定等の成果</li><li>○補習等の状況</li><li>○語学教育の充実</li><li>(言語活動)</li></ul>	果的な指導方法を確立		<ul> <li>○1次合格率75.7%(前年度64.4%)。年度末には100% 達成。</li> <li>○実力テスト&lt;5教科平均〉</li> <li>1年47.02点(前年度49.02点)、2年45.77点(同47.42点)、3年47.4点。</li> <li>○資格取得や成績向上のため補習等について、各科や教員独自に取組み成果を挙げている。</li> <li>○授業のほか、英語等に触れる機会ができるように工夫している。</li> <li>A評価33.8%(前年度25.9%) B評価62.5%(同64.7%)</li> </ul>	В	基本的生活習慣を定着させ、 遅刻・欠席を減らすと共に、基 礎学力の向上とコミュニケーション能力を身に着けさせること により、1次合格率の向上を図 る。
2	の希薄さがあり、基本 的生活習慣の乱れが	<ul><li>○家庭との連携強化</li><li>○基本的生活習慣の定着 状況</li><li>○問題行動への対策状況</li></ul>	<ul><li>○日常生活の改善で、遅刻・欠席の減少を図る。</li><li>○触法行為等、問題行動の防止に努め、規範意識の向上を図る。</li></ul>	○特別指導の件数 (前年比10%減) ○遅刻・欠席者数	○3者面談は各学期末に各ケスで実施。 ○特別指導は前年比で-42%となり、目標達成。なお、喫煙や運転免許での指導が多い。 ○校門や街頭で地域の方の協力を得ながら指導している。 ○スケールウンセラー相談件数は前年度より増。悩みを抱えている生徒や保護者が増えていると思われる。 A評価26.3%(前年度14.1%)B評価63.8%(同62.4%)	В	全職員で行う校内や校外指導 等計画し、風紀向上に努力した ため、特別指導件数が減少した 。今後、一層の規範意識向上に 資するため、組織としての生徒 指導の在り方について、検討す る必要がある。
3	小・中学校や企業等 に、本校の特色や良さ が十分伝わっていない。	○広報紙の発行や、マス	間、仏報誌等(マンス リータイムス)を積極 的に活用し情報発信に	<ul><li>○学校開放週間等の来校者数 やアンケートの結果</li><li>○小・中の体験学習の結果</li><li>○企業等との連携の結果</li></ul>	○学校開放週間等来校者数76名(前年度62名)で	В	近隣企業との、効果的連携の 検討が挙げられる。また、マス コミ等通じ広報に努力している が、保護者より広報の充実の意 見があり、工夫を要する。さら に、同窓会活動の充実も検討す る必要がある。
4	校務等の多用化が 進み、対策が必要であ る。	<ul><li>○文書事務の平準化継続</li><li>○会議等の効率化</li></ul>	とや、時間短縮に努め る。	<ul><li>○会議の回数減や時間の短縮の結果</li><li>○文書事務改善の成果</li><li>○職員の意識</li></ul>	○職員会議26回(前年度26回)、職朝時の尺の活用が定着し、打ち合わせ時間を短縮できた。 A評価27.5%(前年度21.2%)B評価62.5%(同62.5%)	A	管理職のマネジメントで、全 職員でより工夫と努力をし、円 滑な学校運営を組織として確立 していく。

# 学校関係者評価 平成27年3月実施

### 学校関係者からの意見・要望・評価等

〈保護者評価、学校評議委員評価〉 「特色に満ちている」 「同じ科目でクラスごとに先生が違い、理解度に差が出ている」 「服装の乱れが目立つ」

「進路のことについて(就職)、他の 高校より先生方は努力している」 「学校の出来事を知らせてほしい」 「学級活動の様子を教えてほしい」 「進学の勉強を充実してほしい」 ほか、昨年度より多くのご意見を 頂戴しました。

今後、一層の情報公開等、学校関係者 と緊密に連携をとり、他に見られない 学校運営に取組みたい。

評価	保護者(前年度)	評議員(前年度)		
A	40.0% (26.9)	74.7% (61.3)		
В	34.7% (42.7)	24.0% (34.7)		
С	20.9% (24.0)	1.33% (4.00)		
D	2.64%	0		
Е	1.71%	0		

#### <生徒評価>

ほとんどの生徒が、この学校を卒業 して自分の進路に展望が持てると答 えているが、そう思うことができない 生徒が増加した。クラス活動や生徒会 活動を通じて、教員との意思疎通を一 層図れるよう、工夫する必要がある。